

鈴木有郷牧師説教

1/30/2011 ローマの平和とイエスの平和 マタイ5:1-12

主イエスの有名な言葉に次のものがあります。「心の貧しい人は幸いだ。悲しんでいる人は幸いだ。柔和な人は幸いだ。平和を実現する人は幸いだ。」これは21世紀を生きる私たちに、どのような意味を持っているのでしょうか。

主イエスの時代のパレスチナは、ローマ帝国の皇帝シーザーとその傀儡でユダヤ人の王ヘロデによる二重の抑圧にさいなまれていました。シーザーとヘロデは、民衆の反乱を警戒して、兵隊の駐屯所を町や村に置いて武力で民衆を金縛りにしていたのです。

ローマの平和は、民に対する武力による鎮圧以外の何ものでもありませんでした。侵略と抑圧による平和、民衆を押さえつけることによって獲得した平和でした。それはいつかは崩壊する偽りの平和です。

主イエスの平和は違いました。ローマの平和とは逆のものでした。

それは、心の貧しい人が幸いだとされる平和です。心の貧しい人、搾取されて身動きできなくなった人、経済的に困窮し、政治的な自由を奪われて心が萎えてしまった極貧の人々のことです。

何故彼らは幸いなのでしょうか。それは主イエスが彼らと一緒に苦しみ、彼らの重荷を彼らに代って背負ってくださるからです。「重荷を負っているすべての人よ、私の下に来なさい。休ませてあげる、そのあなたを。」この主イエスの言葉は、以上のコンテキストにおいて語られたものです。

主イエスは言葉を継いで言われます。「悲しんでいる人は幸いだ。」悲しんでいる人、それは不正義がまかり通る現実を心から心配している人のことです。暴力と抑圧と不公平が渦巻いている現実にも身を置きながら、あきらめることなく、人間が人間としてあつかわれる世界を望み続ける人を意味します。

何故彼らは幸せなのでしょう。それは彼らが望んでいることが即ち主イエスの望んでおられることだからです。彼らの思いは神の思いと同じだからです。

主イエスは言われます。「柔和な人は幸いだ。」柔和な人—それは、いじめられ、差別され、暴力の犠牲になりながら、自暴自棄に陥らない人、抑圧者に対する憎悪で心が一杯にならない人を指します。

柔和な人は何故幸せなのでしょう。それは、柔和な人は、多くの人が神などいないと言って信仰を捨てる現実の中で、神への信頼を持ち続ける強靱な信仰の持ち主だからです。

主イエスは続けて言われます。「平和を実現する人は幸いだ。」平和を実現する人とは、シーザーやヘロデの世界に身を置きながら、愛と慈しみを人生の規範として持ち続ける人です。

何故彼らは幸せなのでしょう。それは、復讐心から解放されているからです。彼らが求めるものが人と人との和解と一致であり、それは主イエスが求めておられるものと同じだからです。

主イエスはローマの平和は真の平和ではないとして拒否されました。神の平和を身を以て証しされ、啓示されました。それは主イエスが大切にされた食事に象徴されています。

イエスの食卓には女性も男性も、ユダヤ人もサマリア人も、奴隷も自由人も分け隔てなく招かれました。彼らはそこで互いにパンを割き、葡萄酒を飲みかわしたのです。隔ての中垣は取り払われ、平等と公平と慈しみに覆われた、神の思いの中にある世界が、ヘロデとシーザーが支配する世界の直中にそそり立ったのです。

そのような世界の形成に自分のできる範囲で貢献する、これが主イエスが私たちに望んでおられることです。確かに、それは困難な道です。何故なら、私たちの世界は、依然としてシーザーやヘロデが君臨する世界だからです。

しかし、イエスが指し示される道は決して不可能な道ではありません。何故なら、シーザーやヘロデがどんなに強力なものに見えようとも、この世界を本当に治めておられるのは主イエスが啓示された慈しみ深い神だからです。

そのことを信じ、確信し、それを梃に毎日を出来得る限り人間らしく、優しさの眼差しをもって、正々堂々と生きる—これこそ主イエスがもたらした神の平和であるに違いありません。